

山田會南 やまいた こんなん 漢詩人、辯護士。安政六年六月一日大坂船場生れ、大正二年二月二十日歿（八五—一九三）。本名喜之助。少時藤澤南岳の治園書院に學ぶ。明治九年大阪英語學校卒業後上京、大學豫備門に入り法律學を専攻、十五年卒業して代官人となる。在學中大野爲之、山田一郎、岡山兼吉、市島謙吉（春城）等と共に小野梓の下で時事問題、憲法等の研究會鷗渡會を設く。また憲政進黨の結成、東京專門學校の設く等に盡力、爾後大隈系の政客として終始。十八年増島六一郎初代校長の英吉和法法律學校創立に参劃。次で代官人を廢業して司法省に出仕し、二十四年官を辭して代官人の復歸。二十六年所謂法典論争に活躍、二十八年河野廣中、小川平吉、大竹貫一等と白路講和反對國民大會の白比谷ハム園に關き、燒打ち騒擾事件の發展したことは有名。詩文を能くし、雜誌に日本及び日本人の等々執筆。

著書に 可補 『英國私犯法』（増訂第二版・明治十九年七月旬刊、九春堂）、『孔教論（附雞肋詩存）』（明治二十二年十月六日博文館）、『行餘集（附錄鷄肋詩存）』（明治二十五年十一月二十日政教社）、『會南詩文集』（小林俊二編、昭和二十五年十月十日小林俊二法律事務所）等。

